

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月5日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03237

研究課題名(和文) ベトナムの移動をめぐる都市人類学的研究

研究課題名(英文) Urban Anthropological Study on Mobility in Vietnam

研究代表者

大橋 健一 (OHASHI, Kenichi)

立教大学・観光学部・教授

研究者番号：70269281

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代世界のグローバル化に伴う移動による急速な生活圏の拡大がもたらす諸問題への民衆的適応が生み出す文化創造と共同性創出の動態を、現代世界の動向を集約的に映すベトナム・日本・アジア・世界との関係系に着目し、ベトナムにおける都市民衆の生活動態から解明するため、ハノイ、ニャチャンを結節とした日本、韓国、台湾、ロシア、アフリカとの間で展開する移動の動態の調査分析をおこなった。研究からは、現代世界の移動の結節としてのベトナム都市では多様な方向、形態をもった移動が展開し、その錯綜性の中に都市民衆が移動を織り込んだ生活戦略を創出していることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ベトナムをめぐる多面的な移動現象を通して、都市がグローバル化に伴う移動の加速化と生活圏の急速な拡大の最前線であり、そこで展開する多価値混在と異文化交渉の過程が移動を織り込んだ文化創造と共同性創出を展開させていることを解明し、それを現代の動態社会モデルとして提示した本研究は、グローバル化の進む現代の社会文化の動態的理解に対する寄与として重要な意義をもつ。また、本研究は、従来のベトナム研究が前提としてきた「地域研究」という枠組では描ききれなかった地球規模の広がりをもつ動態的なベトナム像を示し、グローバル化の進む現代の新たな地域文化社会研究の方法論を提示した研究としても大きな意義をもつ。

研究成果の概要(英文)：To explore the dynamics of cultures and communities created by the urban folk adaptations to the problems due to the rapid expansion of living space caused by the high mobility of globalized world, this study investigated the dynamics of mobility developed between Vietnam and Asia, Russia and Africa, focusing on urban societies as the nodes of multi directional global mobility. Through ethnographic fieldworks, this study revealed that the acceleration of mobility brought by globalization expands the urban living spaces in Vietnam rapidly in global level, and this expansion forces urban folks to adapt to new socio-cultural environments and issues. Under such situations, they dynamically create cultures and communities as life strategies to correspond to the global expansion of living space through various hybrid practices. The dynamic social model formulated from the ethnographic data of this study will contribute to better understanding of contemporary society having high mobility.

研究分野：都市人類学

キーワード：ベトナム 移動・越境 生活戦略 コミュニティ 都市 都市人類学 グローバル化

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現代世界における地球規模での交流において、ベトナムから見た日本・アジア・世界との関係は、現代世界の「移動」の動向を最も集約的に映す重要な研究対象の一つである。しかしながら、ベトナム社会をめぐるこれまでの研究は、歴史研究、村落研究、宗教研究、難民研究が多くを占め、ベトナムをめぐる「移動」の広範性や頻繁性を視野に入れた現代の地球的交流状況を前提としたベトナム社会研究が十分に構想されてきたとは言い難い。

このような状況を踏まえて本研究は、狭義の地域研究を超えて、現代の世界的状況を読み解くべく、世界との関係系を見据えたベトナムをめぐる「移動の人類学」を提唱し、特に「移動」の結節としての都市という価値複合社会における「移動」がもたらす文化創造と共同性創出の動態の解明を試みることにした。

2. 研究の目的

本研究は、現代世界のグローバル化を前提として、「移動」による急速な生活圏の広がりがもたらす諸問題への民衆の適応が生み出す文化創造と共同性創出の動態を、現代世界の動向を集約的に映すベトナム-日本・アジア・世界との関係系に着目し、ベトナムにおける都市の民衆の生活動態から解明することを目的とする。

そのために、1)生活圏の地球規模での広がり、2)急速な生活圏の広がりがもたらす新たな問題の生成、3)生活戦略としての文化創造と共同性創出という調査研究課題を「移動の人類学」として調査分析し、その上で、「移動」と「固定」のはざまを生きる都市民衆の動態的生活戦略をグローバル化の進む現代の動態社会モデルとして提示する。

3. 研究の方法

本研究では、ベトナム都市と日本、アジア、世界の諸都市との人の移動の関係系を踏まえた都市民衆・移動者の移動と生活世界の動態に関するフィールドワークをその方法とする。

具体的には、ベトナムの都市ハノイ、ニャチャンを結節として、日本、アジア(韓国、台湾)、世界(ロシア、アフリカ)との間で展開する人の移動の関係系に基づく多面的・多方向的移動の動態、都市民衆・移動者の文化創造と共同性創出の動態について、ベトナム、日本、アジア、世界の各都市においてインタビュー、参与観察をはじめとする質的調査を実施し、解明した。

4. 研究成果

(1) 現代世界のグローバル化に伴う「移動」の加速化は、ベトナムにおける都市の生活世界を急速に地球規模で拡大させていることが明らかとなった。このような生活圏の急速な拡大は、特定の国や地域・都市との間の限定された範囲や方向性の中でのみ展開するのではなく、これまでベトナムが経験してきた歴史的な政治経済関係に大きく規定されてきた移動性を含みながらもさらにそれを超えたより広範で多方向的な移動が重層的に展開していることが明らかとなった。現代ベトナム社会の移動性をめぐっては、従来、フランスによる植民地化に伴う宗主国フランスとの間の「移動」、ベトナム戦争に伴う北米・オーストラリアへの難民としての「移動」が話題となることがほとんどであったが、ドイモイ政策導入以降の新たな政治経済状況の下で「移動」の急速な多方向化が進行している。本研究において解明した日本、韓国、台湾との間で展開するベトナム人の労働移動を中心とした「移動」の動態は、このような現代の政治経済状況下における最も活発な「移動」の関係系と言える。また、南北統一後からドイモイ政策導入に至るまでの期間、ベトナムは、その経済的低迷とも相まってあたかも対外的に閉鎖・孤立した社会であったかのごとく捉えられてきたが、そこには旧ソ連を中心とした社会主義圏におけるもうひとつの「移動」の関係系が成立、作動していた。本研究は、この事実を再発見するとともに、旧社会主義圏における「移動」の関係系がグローバル化の進展する今日、ベトナム都市の生活世界レベルにおいて再活性化していることをロシア及び旧ソ連構成諸国との間に展開する「移動」の動態から解明した。さらに、従来は、フランス植民地としての経験や社会主義友好国としての関係からごく一部限定的な関係性は存在したものの、ほとんど関係が希薄であったアフリカとの間で近年急速に「移動」が活発化し、アフリカ人のスポーツ選手やビジネス旅行者などベトナム都市民衆の生活世界、特にストリートレベルにおいてアフリカの存在感が増大していることが明らかとなった。

(2) 「移動」の加速化と生活圏の急速な拡大は、「移動」の結節となる都市民衆及び移動者双方にこれまで経験することのなかった新たな社会文化的環境への適応を迫っている。「移動」の方向や目的、形態などによって生成する諸問題や適応課題の性格は多様なものとなる。本研究では、ベトナムと日本、韓国、台湾との間の関係系で展開するベトナム人の労働移動において、「移動」のメカニズムに存在する構造的な諸問題として、地方の村落にまで出稼ぎブローカーが入り込み、多くの人々が「移動」へと駆り立てられている状況、出稼ぎ移動先国の労働者受入れ制度に大きな差異が存在し、移動先国によって移動者が経験する問題に様々な違いが生じている状況を明らかにした。他方で、現代のグローバルな「移動」の結節としてのベトナムの都市的状況は、自らが「移動」せずとも都市の民衆的生活世界そのものを世界各地からの移動者との交流を望むと望まざるとに関わらず不可避的なものとし、様々な新たな適応課題を生んでいることを明らかにした。本研究において取り上げたニャチャン市中心地区におけるロシア及び旧ソ

連構成諸国からの移動者との交流状況、ハノイ市タヒエン通り地区におけるアフリカからの移動者との交流状況は、それを顕著に物語る具体事例である。

(3)「移動」の加速化と生活圏の急速な拡大によって生じる諸問題に対して、現代都市民衆及び移動者は、多様な「自揚」的实践を通して「移動」がもたらす新たな社会文化的環境に対する生活戦略としての文化創造と共同性創出を動的に展開していることが明らかとなった。ベトナム人労働移動者は、移動先によって異なる移動や受入れ制度に応じて、同郷会など伝統的地域的紐帯から個人的嗜好まで、言葉や風習の同質性を媒介に相互扶助を展開する場合からそれらの違いを許容しながら気の合う者同士がコミュニティを築く場合まで、多様な共同性創出の实践を展開している。さらに「伝統」とみなされる同郷会であっても、同郷の単位が細分化され、また同郷会同士が交流するなど、そこには「自揚」的实践の特徴としての自由性や選択性、恣意性が見出せる。このような文化創造と共同性創出の实践は、ベトナムへの移動者であるロシア及び旧ソ連諸国からの移動者やアフリカからの移動者についても見られるものである。ニャチャンにおいては、ロシア及び旧ソ連諸国からの移動者がロシア語を媒介として緩やかな共同性としての「ポスト・ソヴィエト空間」を創出し、文化創造を展開している。そしてこの緩やかな共同性は、旧ソ連・ロシアへのベトナム人出稼ぎ労働帰還者をも包摂し、そこに創出されるロシア語が媒介する文化環境がニャチャンへのロシア人観光の重要な資源にまでなり、さらなる観光という「移動」を加速させている。また、本研究が明らかにしたハノイ・タヒエン通り地区における移動者としてのアフリカ人と都市民衆としてのベトナム人双方の「自揚」的实践に基づく交流は、多価値混在と異文化交渉のフロンティアとしての都市をさらに象徴的に物語るものと言える。

(4)本研究では、主としてベトナムから日本、韓国、台湾への移動、ベトナム・ニャチャンへのロシア及び旧ソ連諸国からの移動、ベトナム・ハノイへのアフリカからの移動という、ベトナムをめぐる主体と方向性の異なる複数の移動について具体的な動態解明作業を行ったが、さらにこれらの移動の結節としての都市という観点を設定する時、個々の移動現象の動態は、移動性を織り込んだ現代的動態社会モデルとして総合化することができる。「移動」の結節である都市は、「移動」の送り出し点であると同時に受け入れ点でもある。この両義性は、都市への移動者のみならず都市民衆にも「移動」を織り込んだ文化創造と共同性創出を促し、「移動」と「固定」のはざまにおける生活実践が展開する。このことは、都市の媒介する「移動」が始まりと終わりの明確な単線的、一方向的、静態的なものではなく、むしろ連続的、多方向的、動態的なものであることを物語っている。本研究の事例においてもベトナムの村落から都市への国内移動は都市を媒介として国外の出稼ぎ先の都市へと連続していること、ニャチャンへの移動者がウクライナやキルギスからトルコ、エジプト、タイなどへの連続した「移動」を経由してニャチャンへ到達し、さらなる将来的な「移動」の可能性を潜在させていること、ハノイへのアフリカ人移動者がカメルーンからアラブ首長国連邦、ロシアへと移動した上で、さらにベトナム・ハノイへと到達していること、などを明らかにした。この「移動」の連続性に注目する時、都市民衆と移動者の経験は限りなく重なり合ったものとなり、「移動」を前提とした都市という動態社会モデルを構想することが可能となる。

(5)以上のように、本研究は、ベトナムをめぐる多面的な「移動」現象を通して、都市がグローバル化の進展に伴う「移動」の加速化と生活圏の急速な拡大の最前線であり、そこで展開する多価値混在と異文化交渉の過程が、「移動」を織り込んだ文化創造と共同性創出を展開させていることを明らかにした。このような本研究の成果は、従来の国内外の研究が前提としてきた「地域研究としてのベトナム」というアプローチでは描ききれなかった地球規模の広がりをもつ動態的なベトナム像を示すものであると同時に、グローバル化の進展する現代における新たな地域文化社会研究の方法論的方向性の提唱として大きな意義をもつものと位置付けられる。今後は、植民地・宗主国間の「移動」やベトナム戦争難民としての「移動」など従来のベトナム社会研究で限定的に扱われてきた移動性に関わる諸課題をも本研究で提唱した「移動」を織り込んだ文化創造と共同性創出という課題の下に再検討・統合し、「移動」の歴史的重層性を意識した動態的な社会モデルの構築を図ることが本研究の成果をさらに深化させるものとなると展望される。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計15件)

OHASHI, Kenichi. The Interpenetration of Migration and Tourism: The Case of Russian-speaking Tourism in Nha Trang, Vietnam. *Demographics, Sociology, Economy*. Vol.5 Issue 3 (Moscow: Econ-Inform). 2019. 印刷中、査読有

長坂康代、ベトナムの首都ハノイの市場で働く出稼ぎ労働者たち-ロンビエン卸売市場を事例にして-、愛知大学一般教育論集、56巻、2019、pp.41-51、査読無

長坂康代、名古屋の私費ベトナム人留学生の生活経済-大須の国際化との関連で、東邦学誌、

47 卷 1 号、2018、pp.157-172、査読無

大橋健一、「ソーシャルリスト・モビリティーズ」の現代的展開-ベトナムと旧ソ連・ロシアとの関係を中心に、栗田和明編『移動と移民-複数社会を結ぶ人びとの動態』昭和堂、2018、89-113、査読無

和崎春日、韓国滞留アフリカ人の移動と集合 首都ソウルのイテウォンと郊外アンサンの比較から、栗田和明編『移動と移民-複数社会を結ぶ人びとの動態』昭和堂、2018、115-143、査読無

和崎春日、ハノイ民衆ストリートの文化組成力とアフリカ受容 ベトナム都市民衆の慣習からの生活自揚と多元的文化創発、関根康正編『ストリート人類学 方法と理論の実践的展開』風響社、2018、363-398、査読無

長坂康代、台湾の桃園市におけるベトナム人コミュニティ セーフティネットのあり方をめぐって、愛知大学一般教育論集、54 巻、2018、51-57、査読無

長坂康代、ベトナムから韓国への労働移動 ベトナム流コミュニティの形成と改変、栗田和明編『移動と移民-複数社会を結ぶ人びとの動態』昭和堂、2018、145-173、査読無

OHASHI, Kenichi. The Emergence of Russian Speaking Tourism Economy in Nha Trang, Vietnam: A Preliminary Study on the Social-Political Contexts. *Critical Issues for Sustainable Tourism Development in South East Asia*. Hanoi: Vietnam National University Press. 2017. pp.95-103. 査読有

長坂康代、ベトナム人労働者の受入れに関する行政施策の比較-韓国安山市「多文化村特区」と愛知県提案「外国人雇用特区」、愛知大学一般教育論集、52 巻、2017、1-13、査読無

〔学会発表〕(計 14 件)

OHASHI, Kenichi. Russian-speaking Tourism in Nha Trang, Vietnam: Interaction of Tourism and Migration. The 5th Mahidol Migration Center Regional Conference. 2018

OHASHI, Kenichi. The Interpenetration of Migration and Tourism: The Case of Russian-speaking Tourism in Nha Trang, Vietnam. X International Scientific and Practical Forum “Migration Bridge in Eurasia: Migration as a Resource of Socioeconomic and Demographic Development. 2018

OHASHI, Kenichi. The Emergence of Russian Speaking Tourism Economy in Nha Trang, Vietnam: A Preliminary Study on the Social-Political Contexts. The FTS 2017 International Conference on Critical Issues for Sustainable Tourism Development in South East Asia. 2017

大橋健一、ベトナムをめぐるもうひとつの人の移動の回路、立教大学平和・コミュニティ研究機構シンポジウム「流動する移民社会-頻繁な移動者に注目して-」、2017

和崎春日、アフリカ人スポーツ選手の東南アジア展開 - ベトナム・プロサッカーリーグにおけるアフリカ人選手の活動、日本アフリカ学会・第 54 回学術大会、2017

長坂康代、ベトナム人の移動とネットワークに関する研究-韓国アンサン「多文化村特区」を中心に-、立教大学平和・コミュニティ研究機構シンポジウム「流動する移民社会-頻繁な移動者に注目して-」、2017

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：和崎 春日

ローマ字氏名：(WAZAKI, haruka)

所属研究機関名：中部大学

部局名：国際関係学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：40230940

研究分担者氏名：長坂 康代

ローマ字氏名：(NAGASAKA, kazuyo)

所属研究機関名：敬和学園大学

部局名：人文学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：00639099

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。